

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市環境影響評価審査会				
事務局 (担当課)		環境政策課 電話042-769-8240(直通)				
開催日時		令和2年12月7日(月) 18時00分~20時00分				
開催場所		ソレイユさがみ セミナールーム1				
出席者	委員	10人(別紙のとおり)				
	その他	3人(事業者)				
	事務局	6人(環境共生部長、環境政策課長、他4人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 議題 (1) 審議 会長・副会長の選出 (2) 諮問 「(仮称)相模大野4丁目計画」環境影響評価方法書 (3) 受理報告 「GLP相模原プロジェクト」事後調査結果報告書(工事中)				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事業者の発言、 は事務局の発言)

1 開会

定足数の確認の上、開会した。

2 議題

(1) 会長・副会長の選出

環境政策課長の進行により議事が進められ、委員の互選により、会長に片谷委員、副会長に田中委員が前期からの継続として選出された。

以降は、片谷会長の進行により議事が進められた。

(2) 「(仮称)相模大野4丁目計画」環境影響評価方法書

「(仮称)相模大野4丁目計画」に係る環境影響評価方法書について、本審査会への諮問があり、「資料1」を基に、その手続状況が事務局から説明された。

また、事業者から当該方法書の概要が説明された。

計画策定の経緯について、今回の計画の目的は、公共歩廊の設置ではなく、高層建築物の建設であることから、高層建築物の検討の経緯が重要である。検討案の比較が × で示されているが、工事期間等について、もう少し具体的に教えてもらいたい。高さは何故170メートルとなったのか。

戸数は同数を確保するため、案2の高さ100メートルだと建物の幅が大きくなり、日影の影響により建築基準法違反となることから、案3の高さ170メートルとした。また、建築物を建設するという目的のみを達成するには案1で良かったが、デベロッパーとして、地域のまちづくり会議にも参加しており、まちづくりに貢献したいという思いがあることから、公共歩廊の設置を前提として検討した結果、案3となった。

市としては、環境悪化を許容してでも本事業を推進したいという立場なのかどうかが必要である。審議をする上での前提条件を確認したい。

公共歩廊の設置等は求めているが、本審査会においては環境負荷の低減の観点から自由な御意見をいただきたい。

アセスを実施するからには、戸数の確保等の事業者の都合だけではなく、環境負荷の低減を検討していかななくてはならない。「景観」について、遠景の影響は少ないかもしれないが、貴重なオープンスペースである相模大野中央公園への影響は大きい。

公共歩廊の整備を行う上であっても、戸数確保は必要である。高層とならない案1で良かったが、公共歩廊の設置等の地域貢献を考えると高層にせざるを得なかった。

地上2階となっている低層棟を高くすることで、高層棟を低くすることはできないのか。
法的には可能だが、公共歩廊を賑わいのある空間にするには、低層棟を高くすることはできない。

低層棟が高くとも、そのような空間は創出できるのでは。

低層棟は商業施設や地域貢献施設を想定しているが、人が通らないと賑わいは創出できず、3階以上にすると弱まっていってしまう。

オフィスを入れる検討はあったのか。

オフィスを入れる構想はなく、当初はすべて住宅として検討していたが、地域の声を取り入れ、低層階には商業施設等を入れることにした。

計画策定の経緯で3つの案が検討されているが、この3案に至った経緯を教えてください。なお、この計画策定の経緯は、実質的に計画段階配慮の手續となることから、方法書の審議であまり要求するつもりはない。

公共歩廊の設置という市からの要望を受け、建築物を両側に分けなければならなくなったことに加え、日影の影響を考慮したものである。

低層棟が低くなければならない理由を含め、計画策定の経緯の詳細について、次回審査会の補足資料として提出されたい。

評価項目の非選定理由として、「工事中の影響は一時的」という記載があるが、3年半の工事は一時的であると判断したのか。

工事の長さではなく、期間が限られているという趣旨である。

そうすると、10年の工事であっても一時的となるのか。技術指針においても工事が長期間にわたる場合には、選定することを検討することになっている。

項目選定に要する工事の長さに定量的な基準はないことから、工事中の項目選定の要否については、本審査会で御審議いただきたい。

「地域分断」は、現況と工事中は変化がなく、供用時に改善される予定である。供用時においては、現状より良くなるという評価をするということか。

地域分断の解消は今回の事業のポイントとなるため、地域に対する良い変化を示していきたい。

いわゆるポジティブアセスとして、事業実施によるメリットを示したいということだと理解した。

「風環境」のシミュレーションを行う際には、現地の気象データが重要となるが、気象の現地調査は、具体的にはどこで測定するのか。

周辺の影響を受けないよう既存建築物の屋上で測定した上で、周辺測定局と相関をとる。

2階のペDESTリアンデッキ上の予測が重要であるが、既存建築物の屋上の測定のみで問題なく予測できるのか。

シミュレーションで数値的にしっかり解析する。

基本的には予測地点における実測データが重要であることから、「風環境」の具体的な予測方法について、次回審査会の補足資料として提出されたい。

「風環境」の評価手法に示されている村上式は、最大瞬間風速の出現頻度に基づく手法である。しかし、流体数値シミュレーションによる最大瞬間風速の予測は、かなり難易度が高い。したがって、数値解析して終わりではなく、シミュレーション自体の妥当性を事前に確認しておく必要があり、日本建築学会の「都市の風環境予測のためのCFDガイドブック」のベンチマークテスト等を参考にすべきである。また、気象の現地調査として、周囲の影響を受けにくい高所で測定することはシミュレーションの境界条件を得る上で良いかもしれないが、予測する地上付近の測定も検証データとして必要だと考える。

周辺と比較して突出して高い建築物となるが、同様な他事例の問題点と対策について、準備書でも良いので示してもらいたい。

今回の建築物は地下3階とのことだが、地下構造物は既存のものを利用し、新たな構造物は必要ないという理解でよいか。

既存建築物は地下3階であり、本計画も地下3階であることから、新たな杭の設置以外に既存の地下構造物より深く触ることはない。

「交通混雑」の現地調査と予測の地点について、計画地近傍の2交差点が選定されているが、工事中と供用時の走行台数によっては、他の交差点に大きな負荷を与える可能性がある点について検討が必要である。走行ルートと建築物の規模が決まっているのであれば、ある程度の走行台数が想定できると考えるが、他の交差点への影響も検討した結果、この2交差点となったのか。

走行台数の想定はまだしていない。走行ルートの中で関係車両が集中する場所として計画地近傍の2交差点を選定し、その他は分散されるという考えである。他の交差点への影響については、次回審査会の補足資料として提出する。

「ふれあい活動の場」の調査方法について、公園利用者等へのヒアリングとあるが、具体的にはどのようなことを予定しているのか。

利用頻度やどこから来たのかなどをヒアリング予定である。

「ふれあい活動の場」の工事中は評価項目として非選定となっているが、公園周辺の工事

用車両の走行が、親子での公園利用者等に影響を与えることが想定されることから、工事用車両の走行に対する環境保全措置の検討に繋がるようなヒアリングを実施されたい。また、フォトモンタージュを見せながらヒアリング等を実施することも検討されたい。

工事用車両の走行に対し、公園利用者がどのように感じるのかはヒアリングする。

「交通安全」の予測地点については、公園利用者や通学路の状況を踏まえて再検討されたい。

通学路の状況は重要であることから、次回審査会の補足資料として提出されたい。

「交通混雑」の予測方法について、交差点需要率の算出とあるが、飽和交通流率は実測することを検討されたい。

「地域分断」の評価手法について、いわゆるポジティブアセスという観点で実施するのであれば、記載内容を変更する必要がある。

(3) 「GLP相模原プロジェクト」事後調査結果報告書(工事中)

「GLP相模原プロジェクト」に係る事後調査結果報告書(工事中)について、事務局から受理報告された。

供用後の事後調査の提出時期はいつ頃になるのか。

令和3年度から段階的に供用されていく予定であるため、それ以降に実施される予定である。

計画地には複数の建築物があり、段階的に供用されていくと承知しているが、現在の予定はどのような状況なのか。

現在は工事着手後12ヶ月目であり、報告書の資料編に記載のとおり、サイト4及びサイト5の区域が統合となったが、その他については、評価書時から大きな変更はない。

以上

相模原市環境影響評価審査会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠
1	石井 信行	山梨大学大学院 総合研究部 准教授		出席
2	小根山 裕之	東京都立大学 都市環境学部 教授		出席
3	片谷 教孝	桜美林大学 リベラルアーツ学群 教授	会長	出席
4	加藤 ゆき	神奈川県立生命の星・地球博物館 主任学芸員		欠席
5	亀卦川 幸浩	明星大学 理工学部 教授		出席
6	黒田 道子	東京工科大学 名誉教授		欠席
7	桑原 勇進	上智大学 法学部 教授		出席
8	白井 正明	東京都立大学 都市環境学部 准教授		欠席
9	田中 修三	明星大学 理工学部 教授	副会長	出席
10	塚田 英晴	麻布大学 獣医学部 准教授		出席
11	畠山 吉則	日本大学 生物資源科学部 准教授		出席
12	御法川 学	法政大学 理工学部 教授		欠席
13	宮脇 健太郎	明星大学 理工学部 教授		欠席
14	持田 幸良	横浜国立大学 名誉教授		出席
15	吉永 龍起	北里大学 海洋生命科学部 准教授		出席